

竹の子川柳会

すいそうがせまいよきんぎよかわいそう
 小一 みるく
 せまいどあちいさいぼくはとおれるよ
 小一 勇斗
 あめかじるガリガリガリとはにつまる
 小三 翔太
 長崎で平和をいのり青い空
 小六 清也
 暑い夏すももかじって気持ちいい
 小六 清也
 青い空今日も一日平和だな
 中一 海斗
 世話になり次は自分だ恩返し
 中一 海士
 良い天気洗たく物がゆれている
 中二 ななみ
 果物を生かじりしてワイルドに
 高一 聖羅
 物じゃなく結果で示す恩返し
 高一 ちひろ
 雨男天気予報は信じない
 高一 聖羽
 辛い時狭い所がおちつくよ
 高一 瑠依
 返す時一言あるといい気持ち
 高一 瑠依
 空耳が聞こえたような気がしたよ
 高二 沙耶

わがまち自慢百景「内山展望台」



標高約760メートルの綱付山=生田=山頂に位置する内山展望台。この展望台は、愛治地区町有林管理組合が地元の人たちに「もっと山に関心を持ってもらいたい」、「地域に対する愛着をさらに高めてもらいたい」との思いから平成16年11月に建設されました。



晴れた日には鬼北町が一望できるこの展望台。360度のパノラマに広がる絶景をぜひ一度、その目で楽しんでみてはいかがでしょうか。

鬼北の足跡を辿る【第3回】

「客殿・庫裏一体建築による本坊建物」

発掘調査、整備中の国史跡等妙寺旧境内にスポットを当て、皆さんにぜひ知っていただきたい魅力、見どころを紹介していく「鬼北の足跡を辿る」。今回は、寺院の中核と伝わる平坦部Aで検出された本坊建物跡を取り上げます。

本坊建物は南に正門をもつ南北四間×東西六間の客殿、南北九間半×東西五間半の庫裏を備えた、客殿・庫裏一体建築による建物であったことが分かりました。「客殿」とは、客をもてなしたり、儀式儀礼を執り行う建物、「庫裏」とは、台所などを備えたいわば住職のプライベートな建物で、これらが一つの建物として建てられていたという事です。このような客殿・庫裏一体建築は江戸時代に流行した建築様式とされていますが、等妙寺旧境内は戦国時代の1588年に焼亡したことが文献などから分かっていますので、少なくともそれ以前に建てられたといえるでしょう。江戸時代以前に建てられた客殿・庫裏一体建築として非常に貴重な例と言えます。

また、柱と柱の間隔は6尺5寸(約195センチメートル)の京間を採用し、礎石の配列には一間半や半間といった半端な柱間が見られます。こうした建築上の特徴は、技術・文化の先進地である京都でも応仁の乱(1467～1477年)以降、すなわち15世紀第4四半期以降に見られるとされています。

本坊建物の建築された時期は出土した備前焼や中国産陶磁器の分析から15世紀末から16世紀前半頃を想定しています。京都で応仁の乱(1477年)以降、15世紀後半頃に見られる建築様式が、地方の等妙寺旧境内において非常に早い段階に採用されている点は注目できます。



本坊跡の発掘調査状況 (平成28年度撮影)